

成果報告書

教育研究課題名	International Council for Coach Excellence (ICCE) におけるコーチング学の展開を踏まえたわが国における体育・スポーツ指導者養成のあり方の検討
---------	--

1、補助事業の取組状況（500字以内）

わが国における体育・スポーツ指導者の養成のあるべき姿について検討するため、わが国におけるコーチ養成に影響を与えているInternational Council for Coach Excellence (ICCE) の取り組みについて整理した上で、チェコ共和国における体育・スポーツ指導者養成の取り組みに西ポヘミア大学プルゼニ校等において参加しその内実について調査した。具体的には、在外研究に先立ち、ICCEの取り組みを推進する中心的な研究者であるオーストラリア・クイーンズランド大学のDr. Steven Rynne氏を訪問し情報交換と研究協力要請を行った。その上で、在外研究期間においては、現地の受入れ教員であるDr. Vaclav Salcman氏が担当する、大学における体育教員養成のための陸上競技の専門実技の授業と地域陸上競技クラブにおけるコーチングの実際及びそれらを取り巻く状況の変化について調査するとともに、チェコ共和国陸上競技連盟におけるコーチ養成の状況について聞き取りを行った。また、チェコ共和国以外のヨーロッパ諸国の関連研究者・指導者等に対しても、Eメール等の連絡手段を用いて同等の内容の状況調査を行った。さらに、走高跳のコーチングについてResearch Gateを介して情報提供を求めてきたコーチを対象とした学習支援とその事例の事後的検討も行った。

2、補助事業の成果（500字以内）

ICCEの取り組みを整理したところ、現在のコーチ養成を基礎づける「アスリートセンタードコーチング」の理念と個別スポーツ種目における合理的な課題解決との間にはジレンマが生じていた。また、チェコ共和国等の体育・スポーツの指導者養成の状況を概観したところ、体育の教員養成は大学において継続して行われる一方、個別スポーツ種目のコーチ養成は競技団体のみによるものとなり、かつて存在していた大学との接点は失われつつある現状が確認された。加えて大学では、体育教員養成課程における実技科目や個別スポーツ種目の指導法などの科目を担当していたかつての実技系研究者ポストがハイレベルな研究業績を有する自然科学系研究者ポストに徐々に置き換わり、体育教員養成課程における実技科目やコーチ養成の実践が個別スポーツ種目における問題解決にかかわる実践研究の裏付けを失いつつある現状が確認された。さらに、走高跳のコーチに対するトップコーチと連携した学習支援とその過程を対象とした事例的検討を行ったところ、アスリートセンタードコーチングの実現には、個別種目の問題解決にかかわる実践知を統合したコーチング理論の確立が必要であることが示唆された。

所属	職名	氏名
健康科学部	准教授	渡辺 輝也 印